

バングラデシュ・ビジネス関連ニュース (2018年5・6月)

～現地新聞記事の要約～

(為替レート 1タカ=1.304円)

産業別ニュース	
食品 FMCG	<p>【バングラデシュにおける人気ブランド】</p> <p>マーケットリサーチ会社の Kantar Worldpanel 社は、バングラデシュでプレゼンスを発揮しているトップブランドを発表した。FMCG 分野では、現地の消費者は国内ブランドより外国ブランドを好む傾向にある。(5月30日 Daily Star 紙)</p> <p>●トップブランドリスト</p> <p>FMCG : Sunsilk, Lux, Rin Beverages : Ispahani, 7-UP, Broke Bond Food : Teer, Coca-cola, Fresh Health & Beauty : Sunsilk, Lux, Parachute Home Care : Rin, Wheel, Vim Dairy : Marks, Diploma, Fresh</p> <p>【ゴールデンハーベスト社 コールドチェーンの構築を進める】</p> <p>食品加工会社のゴールデンハーベストは、冷蔵・冷凍貯蔵庫を有する IFC InfraVentures と業務提携を行う。冷蔵・冷凍食品の流通時の適切な温度管理を行うため、コールドチェーン流通網を固める狙い。(6月1日 Daily Star 紙)</p>
農林水産業	<p>【マンゴー 今年は豊作！】</p> <p>6月からマンゴーの収穫シーズンに突入する。今年の気候はマンゴー栽培にとって好条件であったようで、豊作に転じた。例年にない収穫量が期待される。(5月27日 Financial Express 紙)</p> <p>【バングラ製家具 国内市場需要満たす】</p> <p>バングラデシュにおける家具の市場規模は1,800億タカ程度。当該需要に対して、概ね(90%程度は)ローカル家具メーカーが供給プレーヤーとして質・量ともに役目を果たしている。バングラデシュからの家具の輸出高も年々増加している。(5月13日 Daily Star 紙)</p> <p>【ユーグレナの緑豆が秘める可能性】</p> <p>ユーグレナ社の日本向け緑豆輸出量が堅調に伸びている。これを受け、バングラデシュ商業省高官と、ユーグレナ社の代表との面談が設けられる予定であることが発表された。本事業における緑豆は、Tangail, Bhola で栽培されている。(6月30日 Financial Express 紙)</p>

<p>アパレル</p>	<p>【インド製衣服 市場を席巻する】 インド祭（6月）に向けて消費者の衣服購入需要が高まっている。デザイン性に優れているインド製の衣服が当該市場を席巻している。特に女性は、ローカル品より生地の高品質、デザイン性の優れている輸入品を好んで購入する傾向にあるようだ。（5月28日 Daily Star 紙）</p> <p>【インド向け 衣類輸出量 倍増】 インド市場向け衣類輸出量について、2018年度は前年度の約2倍の2.5億米ドルに達する見込みであると輸出振興庁が発表した。主な牽引役は欧米ブランドのバングラデシュ OEM 生産品で、インドの中間所得層向けのものが多い。（6月14日 Daily Star 紙）</p>
<p>化学</p>	<p>【ペットボトルフレーク 輸出量半減】 リサイクル原料としての使用済ペットボトル（粉砕したフレーク含む）の輸出量が（前年度比）半減した。中国による輸入制限が原因で、輸出業者は打撃を受けており、代替販売先を探している。自国でのリサイクル産業ニーズが高まっているとも言える。（5月28日 Financial Express 紙）</p>
<p>教育</p>	<p>【セカンダリースクール全国統合試験の結果発表】 セカンダリースクール全国統合試験（SSC）の結果が発表された。前年度に比べて、全体合格率が2%下がり、直近8年間で最低レベルの結果となった。特に、全体的に英語・数学の成績が下降気味であることが指摘されている。（5月7日 Daily Star 紙）</p>
<p>情報通信</p>	<p>【Cisco デジタル分野で中小企業支援事業に乗り出す】 Cisco は、バングラデシュで中小企業を支援する事業“Cisco START”を始める。Cisco が有するデジタル技術・ノウハウを用いて独自のサービスを提供し、中小企業のイノベーションを図る。既にトレーニングアカデミーを設立しており、これまで12,300人の学生にトレーニングを提供してきた。（5月29日 Dhaka Tribune 紙）</p> <p>【求人サイト bdjobs.com 豪パートナーのシェア増加】 バングラデシュの求人サイト運営会社「bdjobs.com」への現地出資者から、合計10%(3億タカ)分のシェアをオーストラリアの出資者「SEEK International」が買い取った。SEEK社は2015年にbdjobs.comの株式の25%を取得、今般の買い取りでシェアは35%に到達する。（5月17日 Daily Star 紙）</p>

	<p>【フランス 衛星第二弾への支援に興味示す】 フランス政府は、バングラデシュの通信衛星第二弾について、仏企業 Thales Alenia Space が開発・製造するものに資金融資を行うという提案をバングラデシュ政府（ICT 省）に行った。先般打ち上げられた通信衛星第一段「Bangabandhu-1」も、Thales 社が製造したもの。（6 月 13 日 Daily Star 紙）</p>
金融	<p>【HSBC バングラデシュは「最も先行きの明るい市場」】 HSBC は、HSBC が事業を行っている 25 カ国の内、バングラデシュは「最も先行きの明るい市場」であると称賛し、長期的には産業多角化が課題で、インド、中国、インドネシア等へのサービス貿易が成長のカギを握っていると強調した。（5 月 31 日 Financial Express 紙）</p>
電子機器	<p>【ワールドカップ商戦 テレビ販売台数急増】 FIFA ワールドカップを目前に、テレビ販売台数が急増している。これを受け、Samsung, Walton, Rangs, Transcom, Singer などの主要メーカーは様々な形でマーケティング活動を積極的に行っており、各社とも順調に販売台数を伸ばしている。（5 月 20 日 Financial Express 紙）</p>
建設	<p>【MRT 主要駅周辺の商業施設で街づくり】 バングラデシュ鉄道は、今後日本等の支援で立ち上がる都市鉄道（MRT）と併せて、500 億タカを投じて主要駅（カマルプールと空港）に商業施設を建設する計画を発表した。首相府及びバングラデシュ鉄道の要人が来月日本に出張し、日本政府に本事業にかかる支援を要請するようだ。（5 月 23 日 Financial Express 紙）</p> <p>【2018 年度予算案：インフラ案件への配分状況】 政府与党アワミリーグは、2018 年度予算案において予算を優先配分するインフラ案件を発表した。パドマ橋、メトロ都市鉄道、ルプール原子力発電などの大型インフラ案件が重要視されている。（6 月 5 日 Dhaka Tribune 紙）</p>



Blue vertical bar on the left side of the top section.

自動車

【中古車輸入価格 上昇傾向】
 2018 年度の予算案では、中古車の輸入関税優遇措置を取りやめる旨述べられている。現在中古車の輸入価格が概ね 10 万タカ程度であるのが、45 万タカ程度に跳ね上がるであろう、中古車輸入・ディーラー協会 (Barvida) はこのように述べ、危機感をあらわにしている。(6 月 12 日 Daily Star 紙)

【UBER 保険プログラムを開始する】
 バングラデシュにおいてもカーシェアリングビジネスを展開する UBER は、乗客及びドライバーに対する保険プログラムを開始すると発表した。事故死には 20 万タカ、後遺障害には最大 20 万タカ、入院には最大 10 万タカの範囲まで、(保険料) 無料で提供される。UBER はこのような新たな取り組みを通じて、バングラデシュにおけるさらなる事業拡大を狙う。(6 月 7 日 Financial Express 紙)

電力

【躍進する太陽光発電システム】
 太陽光発電システム (SHS) の導入が急速に増えており、現在の発電能力は 218 メガワットに至った。その他主要な指標は以下の通り (6 月 24 日 Financial Express 紙)

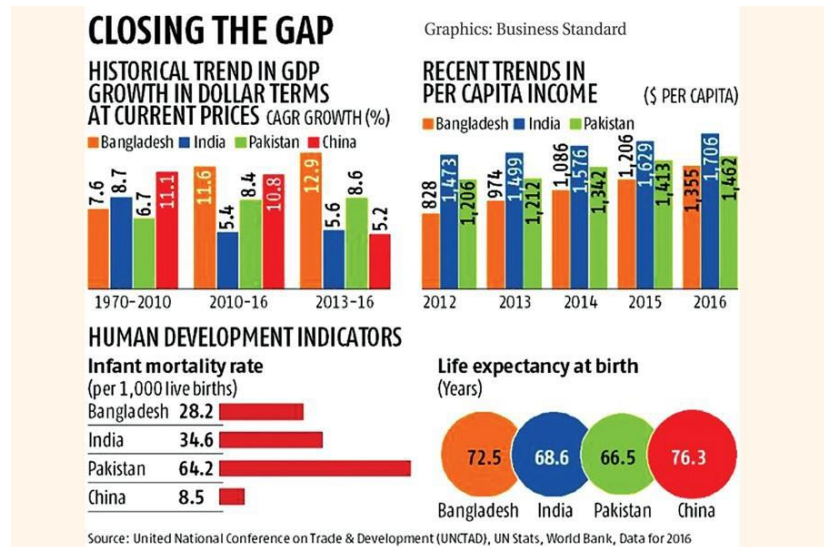
- 全国で累計 5.2 百万個の SHS が導入された。
- SHS 年間導入数が昨年比 27% 増加した。
- SHS の利用者数は 17 百万人で、世界第二位。
(インドの 148 百万人が世界最多)

分野横断的ニュース

マクロ経済

【1人当たり GDP、インド追い抜く勢い】

2020年にはバングラデシュの1人当たり GDP はインドの数値を抜くであろうとの予測が、Business Standard 社により発表された。(5月30日 Financial Express 紙)



財政
税制

【2018年度の予算案発表】

2018年度の予算案が発表された。GDP 成長率 (7.8%)、インフレ率 (5.6%) と見ており、総歳入予定額は 3.4 兆タカ (前年度実績 2.6 兆タカ)、総歳出予定額は 4.6 兆タカ (前年度実績 3.7 兆タカ) とした。徴税を所管する国家歳入庁 (NBR) の歳入予定額は 2.9 兆タカ、その内訳は VAT (37.3%)、所得税 (34.0%)、関税 (28.7%) である。(6月8日 Daily Star 紙)

本予算 (税制改正) 案を受け、値上がりすると見られている製品は、中古車・たばこ・エナジードリンク・コーヒー/茶・ヘリコプター等で、値下がりすると見られている製品は、ミルクパウダー・コンピューター・ビスケット・医薬品・二輪車 (バイク) 等である。(6月8日 Financial Express 紙)

【日本の優遇借款利率 1%に引き上げ】

近年の経済成長を受け、日本はバングラデシュ政府への優遇借款利率を現行の 0.7%から 1.0%に引き上げる。バングラデシュに対する 39 回目のローンパッケージから当該利率が適用される。2016 年度以前の借款利率は 0.01%であった。(6月15日 Financial Express 紙)

<p>金融・物価・ 為替</p>	<p>【民間セクターへの融資額成長率 下降傾向】 銀行の民間企業に対する融資額成長率が下降傾向にある。過剰融資により預貸率（貸出残高を預金残高で除した比率）が高まり、資金源が枯渇しつつあるためである。バングラデシュ中央銀行は、銀行の財務健全性を保つために預貸率を押し下げるよう銀行に対して指示している。（5月30日 Daily Star 紙）</p>
<p>雇用問題 ジェンダー その他 社会問題</p>	<p>【大気汚染 世界ワースト3位】 WHO のレポートによると、ダッカ市は世界で3番目に大気汚染がひどい市であると指摘された。ワースト1位はインドのデリー、2位はエジプトのカイロである。（5月3日 Financial Express 紙）</p> <p>【最低賃金 16,000 タカ求む】 RMG（既製服）セクターの労働者団体は、政府に対して最低賃金として「月給 16,000 タカ・毎年 10%昇給」を規定するよう要請した。今後の動向が注視される。（5月17日 Financial Express 紙）</p> <p>【プラスチックゴミの行く末・・・】 バングラデシュでは 2002 年よりプラスチック袋の生産が禁止されている。今でもその規制が敷かれてはいるものの、毎日 1,700 トンのプラスチックゴミが排出されている。排出されるプラスチックゴミの半分程度しかリサイクルされていない状況。（6月5日 Daily Star 紙）</p>